

藏	元	遺	跡
時	屋	地	區
細	井	地	區
速	日	峰	地
中	野	原	地
都	城	盆	地
丸	谷	地	區
中	尾	·	牛
元	野	牧	地
		區	遺
			跡

平成4年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成5年3月

宮崎県教育委員会

元	遺	跡
時	屋 地 区 遺	跡
細	井 地 区 遺	跡
速	日 峰 地 区 遺	跡
中	野 原 地 区 遺	跡
都	城 盆 地 地 区 遺	跡
丸	谷 地 区 遺	跡
中尾・	牛 牧 地 区 遺	跡
元	野 地 区 遺	跡

平成4年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成5年3月

宮崎県教育委員会

## 序

II頃から埋蔵文化財の保護・活用に対し、深い御理解をいただき厚くお礼申し上げます。

宮崎県内各地では、各種の農業基盤整備事業が実施されておりますが、事業実施予定地内にも多くの遺跡が存在し、文化財の保護と農業基盤整備事業との調整が1つの課題となっております。県教育委員会では、農政部局との協議資料として、事業実施予定地内の分布調査や発掘調査を実施し、遺跡の所在の有無、性格、範囲等の基礎資料を作成しております。

本報告書は、平成4年度に試掘調査を実施しました蔵元地区遺跡など10か所の調査結果についての概要を報告するものであります。これらの調査成果が、文化財の保護に生かされるとともに、地域の歴史の解明、また社会教育の場で活用されるなど、役立てていただければ幸いに存じます。

最後に、調査にあたって御協力をいただいた地元の土地改良区ならびに市町村教育委員会、各農林振興局などの諸関係機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成5年3月

宮崎県教育委員会

教育長 高山 義孝

## 例　言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成4年度の国庫補助を得て実施した発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業に伴う遺跡の確認調査として実施した。
3. 遺跡の名称は、現在遺跡として報告されておらず、今回の分布調査、試掘調査等で確認された遺跡については、農業基盤整備事業の地区名を使用している。また、遺跡の推定範囲が広範囲で、その中に数か所の遺物散布地等がある場合には、「遺跡群」と表現している。正式な遺跡名は、本調査に伴い字名などを参考に命名される予定である。
4. 発掘調査は、県文化課主査高哲郎、同北郷泰道、同石川悦雄が担当したが、北方町教育委員会小野信彦、高鍋町教育委員会山本格の協力を得た。
5. 本報告書の執筆等には、各調査担当者が当たった。
6. 出土した遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで保管している。

## 本文目次

第Ⅰ章 平成4年度調査の概要	1
第Ⅱ章 発掘調査の概要	2
第1節 蔵元遺跡	2
第2節 時屋地区遺跡	5
第3節 細井地区遺跡	9
第4節 速日峰地区遺跡	12
第5節 中野原地区遺跡	14
第6節 都城盆地地区遺跡	16
第7節 丸谷地区遺跡	19
第8節 中尾・牛牧地区遺跡	22
第9節 元野地区遺跡	24

## 挿図目次

第1図 蔵元遺跡トレチ配置図	3
第2図 時屋(時雨)地区(宮崎上の原)トレチ配置図	6
第3図 時屋(時雨)地区(清武上の原)トレチ配置図	7
第4図 時雨地区遺跡土層図	8
第5図 細井地区地形図	10
第6図 速日峰地区遺跡トレチ設定図	13
第7図 中野原地区遺跡トレチ設定図	15
第8図 黒瀬戸・上示野原遺跡トレチ配置図	17
第9図 丸谷地区遺跡トレチ配置図	20
第10図 中尾・牛牧地区遺跡地区設定図	23
第11図 元野地区遺跡土層図	24
第12図 元野地区トレチ配置図	25

## 図版目次

図版1 蔵元遺跡	4
図版2 細井地区遺跡	11
図版3 速日峰地区遺跡	12
図版4 中野原地区遺跡	14
図版5 都城盆地地区遺跡	18
図版6 丸谷地区遺跡	21
図版7 中尾・牛牧地区遺跡	22

## 第Ⅰ章 平成4年度調査の概要

平成4年度は、従来のほ場整備等農業基盤整備事業のほか、新たな事業としては九州農政局の予定する農業水利事業の予定地の分布調査・試掘調査を実施した。発掘調査の実施地は、下記のとおりである。

遺跡名等	所在地	調査年月日	調査担当
藏元遺跡	えびの市大字上江字藏元	平成4年5月25日～26日	面高 哲郎
椎屋形地区遺跡	宮崎市大字細江字椎屋形	平成4年6月16日～24日	石川 悅雄
丸谷地区遺跡	都城市丸谷町字上大五郎	平成4年7月2日	面高 哲郎
細井地区遺跡	高城町大字有水・西久保	平成4年7月6日～7日	面高 哲郎
速日峰地区遺跡	北方町已	平成4年7月6日～24日	面高 哲郎
中野原地区遺跡	東郷町大字山陰	平成4年9月10日～11日	北郷 泰道
時雨地区遺跡	宮崎市細江・清武町船引	平成4年8月10日～24日	北郷 泰道
都城盆地地区遺跡	高崎町大字大牟田	平成4年11月11日～18日	石川 悅雄
生駒遺跡	小林市大字西方・生駒	平成4年12月4日	面高 哲郎
中尾牛牧地区遺跡	高鍋町大字上江	平成4年12月15日～17日	北郷 泰道
丸谷地区遺跡	都城市丸谷町字上大五郎外	平成4.12.25 平成5.1.5	面高 哲郎
元野地区遺跡	田野町大字元野字高野原	平成5年1月25日～27日	石川 悅雄
都城盆地地区遺跡	山田町大字山田	平成5年2月2日～3日	面高 哲郎
田代地区遺跡	えびの市大字末永・田代	平成5年2月22日～26日	面高 哲郎
細井地区遺跡	高城町大字有水・西久保	平成5年3月17日～18日	面高 哲郎

## 第Ⅱ章 発掘調査の概要

### 第1節 蔵元遺跡

#### 1. 遺跡の位置

蔵元遺跡は、えびの市大字上江字蔵元に所在する。北に川内川、南に池島川に挟まれ、西方に伸びる台地上に立地する。当台地上には、県内最大の地下式横穴墓群である小木原遺跡など多数の遺跡が立地しており原田・上江遺跡群と総称されている。蔵元遺跡もその中の1つであり、遺跡の東150mには布目瓦の出土する放光寺跡が所在している。

#### 2. 調査に至る経緯

宮崎県西諸県郡農林振興局では昭和59年度より上江・池島地区は場整備事業を西の池島地区から東に向けて実施してきている。それに伴ない小木原遺跡群地区・久見迫地区等の発掘調査を実施してきている。本年度の工事は放光寺跡の西5haで遺物散布等は確認されていなかった箇所である。工事予定地の微地形は、北部北水田がわずかに高く、南に向かって数10cm程ずつ低くなっている。4月、分布調査を実施したところ工事予定地の北隣接地の畑で遺物の散布が確認されたので試掘調査を平成4年5月25・26日の2日間実施した。調査の実施により当地に中世の遺跡の所在が明らかになったので、えびの市教育委員会により平成4年11月から12月まで農道部分を中心とした本調査が実施されている。

#### 3. 調査の概要

調査は、幅1mのトレンチを設定し、調査を行った。当地の基本層序は、第I層表土(耕作土)、第II層黒色土、第III層アカホヤ、第IV層暗褐色土、第V層礫を含む明褐色土となっている。各トレンチの土層・出土遺物・検出構造等の状況は次のとおりである。

第1トレンチから第4トレンチは、分布調査で遺物の散布が確認された南隣接地である。南水田面より50cm程高くなっている。第1トレンチは、基本層序が遺存し第III層アカホヤ層は82cm下で確認される。アカホヤ層面でピットが検出され、遺物は、第II層で青磁、土器片が出土した。第2トレンチでは表土下がアカホヤである。性格不明の溝が検出されている。遺物は出土していない。第3トレンチも表土下はアカホヤであり遺物・構造等は検出されていない。第4トレンチでは第II層黒色土層中で砂がレンズ状に堆積する溝が検出されている。遺物等は出土していないため時期は不明である。

第5トレンチは、第1トレンチの東50mに設定したトレンチである。基本層序が遺存し第III層アカホヤ層は57cm下で確認される。アカホヤでピットが10数個検出され線描蓮弁の青磁・土師器等が出土している。第6トレンチでは67cmまで黒色土が遺存している。

なお、放光寺跡の西50mに位置し地区除外となっている杉林は一段高くなっている箇所で、杉林内の北縁部には土壘状の高まりが見られる。位置から放光寺跡との関連の考えられるが、性格等など詳細は不明である。

第1図 蔵元遺跡トレシ配置図



図版1 蔵元遺跡



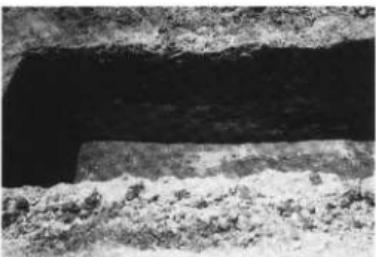
杉林内土壘



土壘近景



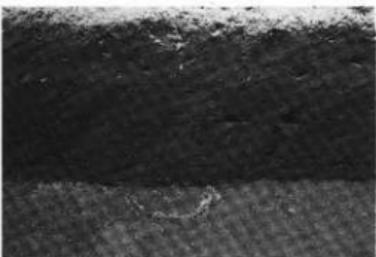
第3トレンチ



第4トレンチ



第5トレンチ



第5トレンチ柱穴



第6トレンチ



第5トレンチ埋め戻し

## 第2節 時屋地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

時屋地区とは宮崎市大字細江の時雨地区（清武町域を含む）と椎屋形地区の総称で、宮崎市の南西部、清武町、田野町との境界附近に位置する、清武川に臨むシラス台地である。

椎屋形地区では平成3年度から県営農地保全事業が実施されていて、3年度には椎屋形第一遺跡の調査が行なわれ、弥生時代の集落や縄文早期、草創期の遺構遺物が検出された。平成4年度は西半分で工事が実施されることになり、6月15日から19日まで試掘調査を行なった。

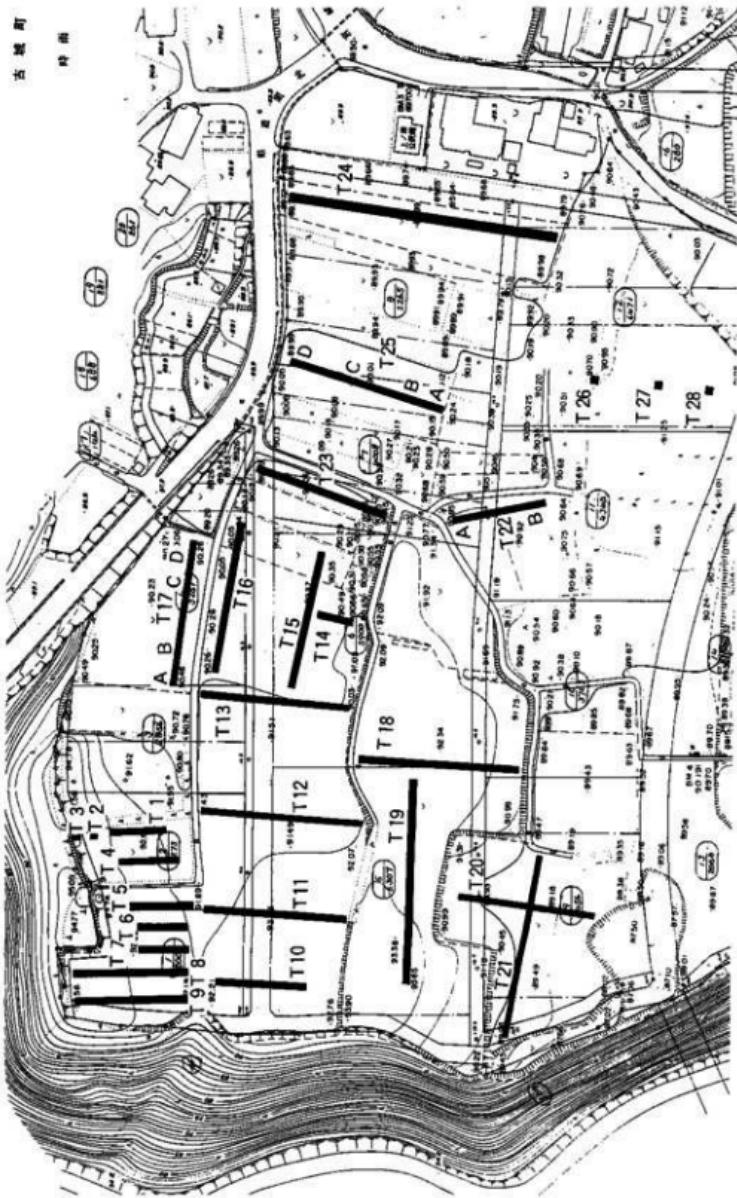
時雨地区は、平成6年度以降に工事が実施される予定区域に宮崎市上の原遺跡、清武町上の原遺跡が存在し、周辺にも遺跡が拡大する可能性が高いと予想され、施工方法等を協議するデータを得るために、8月10日から24日にかけて試掘調査した。

### 2. 試掘調査の概要

椎屋形地区は、椎屋形第二遺跡とした小高い北半部以外では、顕著な遺構遺物の存在は認められなかった。椎屋形第二遺跡については、10月19日から平成5年1月13日にかけて本調査を実施し、縄文早期の集石遺構や連結土壙等を検出した。

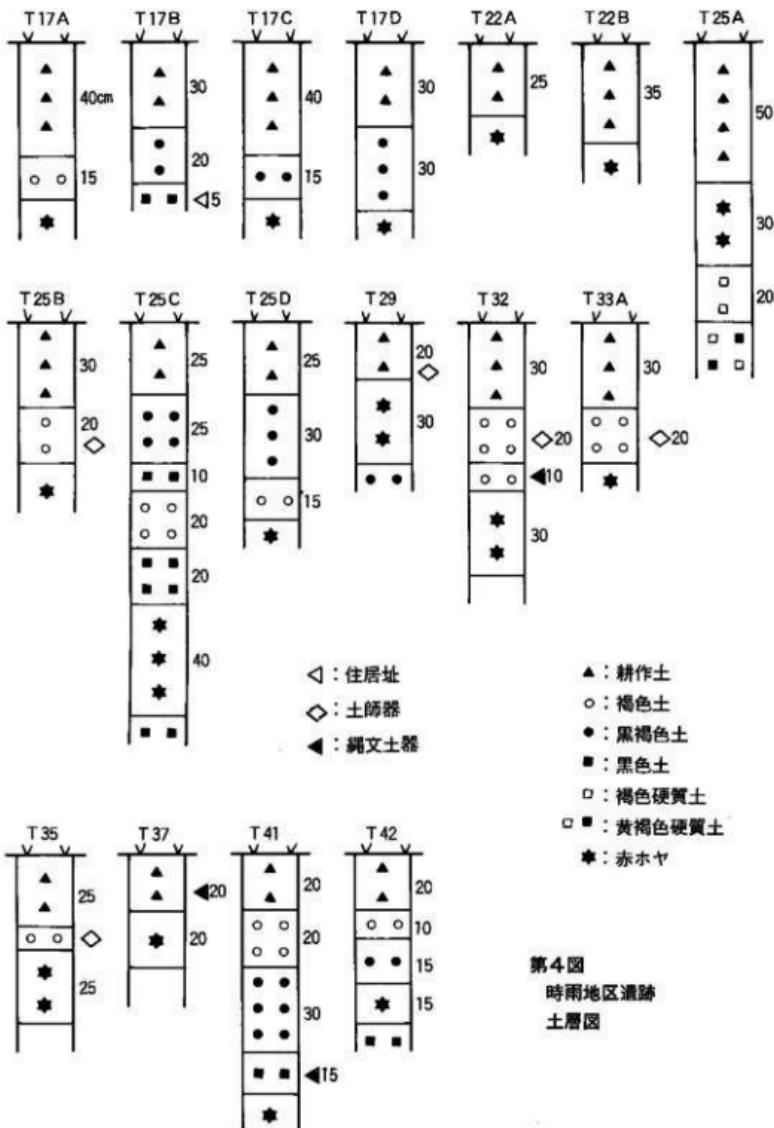
時雨地区では、43本のトレンチを設定し、土層、遺構、遺物の確認をすると共に、宮崎市部分では詳細な分布調査を実施した。宮崎市地区では遺物の散布がほぼ全域で確認できたが、比較的濃密に見られる範囲はT17、T22、T25の三箇所で、T17では住居址を検出し、T25では平安時代の土壙、土師器を検出した。その結果、遺跡の東半分が平安後代から縄文時代にかけての遺跡の範囲と判断された。清武町地区では耕起のため分布調査が実施できなかったが、町教育委員会による調査で、ほぼ全面に縄文後期土器や剝片の散布が確認されている。トレンチの調査ではT29、T32、T33で平安時代と思われる土師器片の出土を見、T32では加えて縄文後期土器片、T33では時期不明の溝2条が検出された。従って、清武町上の原遺跡の谷を挟んだ北半部は平安時代の遺跡と考えられた。谷を挟んだ南半部はT35、T37、T41、T42トレンチで縄文時代後期土器片や剝片が検出され、ピットもいくつかみつかった。従つて町教育委員会の分布調査の結果と合せて、比較的平坦な部分はすべて遺跡の範囲に含まれると判断される。

第2図 時雨(暴雨)地区(宮城上の原)トレーン配置図(1/3000)





第3図 時屋(時雨)地区(清武上の原) トレンチ配置図(1/2000)



第4図  
時雨地区遺跡  
土層図

T17~T25: 清武上の原  
T29~T42: 宮崎上の原

## 第3節 細井地区遺跡

### 1. 遺跡の位置

細井地区は、都城盆地の北部に位置し行政区画としては、北諸県郡高城町大字有水に所在する。当地は、野塚山地の北西部にあたり台地状地形が発達し、各所に湧水があり小川となって西眼下を北流する大淀川に合流している。台地状地形には水の浸蝕による開析谷が幾筋も入っており、台地は舌状台地を呈しているところが多い。当地の分布調査によると遺跡は、この舌状台地上で多く確認される。

### 2. 調査に至る経緯

宮崎県北諸県郡農林振興局では昭和63年度より西久保を含む一帯を「細井地区」として特殊農地保全整備事業に着手している。平成2年6月農林振興局から細井地区特殊農地保全整備事業予定地の図面提出があり、文化財の所在状況についての照会があった。文化課では予定地内の分布調査を実施し、11か所の遺跡が確認された旨を平成2年10月17日付けで通知した。工事は、平成4年度から予定区の南端部から着工することになった。

本年度工事予定区内には、先に確認した遺跡のほか中世の山城「須田木城」跡、ごぼう作付のためのトレンチャーで深耕された箇所で縄文後期等の遺物散布が新たに確認された。そこで農林振興局と文化財の保護について協議を行ったところ、その中で須田木城については文化財の保護や工事の関係等から現状で保存されることになった。遺物散布地については、工事により影響を与える部分を発掘調査を実施して記録保存措置をとることになった。

本年度の試掘調査は、2次にわたり調査している。1次調査は、平成4年7月6・7日に平成4年度工事予定区（A～D地区）及び平成5年度工事予定区（F地区）の一部を実施し、2次調査は5年3月17～18日に平成5年度工事予定区（E地区）を実施した。

### 3. 調査の概要

1次調査では、「須田木城」跡の東麓の遺物散布地外をバックホーを使用して実施した。B地区については、盛土地区であったため試掘調査は行っていない。当地の基本層序は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層高原スコリア（地元での通称「アカボラ」）、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層ボラを含む黒褐色土、第Ⅴ層御池ボラとなっている。

A地区は、3本のトレンチを設定した。一部は土取りやトレンチャーの深耕で影響は受けているが、基本層序は残存している。第Ⅲ層から第Ⅳ層で縄文時代後期、古墳時代、平安時代の遺物が出土し、遺構は古墳時代の竪穴造構や溝状造構、ピット等が検出された。

C地区については谷部にあたるところで基本層序は良く残っていて第V層は1m程度にある。遺物は第Ⅲ層から第Ⅳ層若干出土したのみである。D地区は尾根状地形の箇所で、遺物は若干出土したが、遺構は検出されていない。F地区では平安時代の遺構・遺物が検出されている。

調査の結果からA地区については、高城町教委で10月から3月にかけて本調査を実施している。



第5図 細井地区地形図

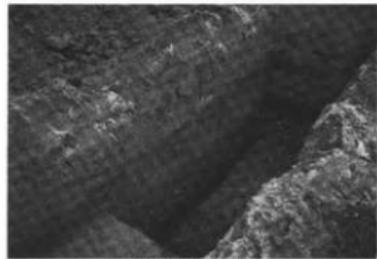
図版2 細井地区



A 地 区



A 地 区



A地区溝状造構



C 地 区



D 地 区



D 地 区



F 地 区



F 地 区

## 第4節 速日峰地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

速日峰地区遺跡は、北方町已に所在し、平成2年度から継続して発掘調査を実施している。試掘調査は、年度ごと次年度工事予定区域について実施しているが、本年度は事業計画が前年度で固まらなかったため、年度当初に当該年度の試掘調査を実施し、発掘調査対象区の絞り込みを行った。

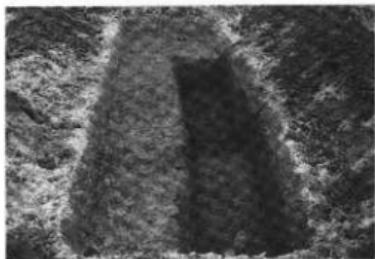
### 2. 調査の概要

試掘調査は、これまで住居跡等遺構の存在を確認されていない、標高160m以上の比較的高位のややテラス状の畑地にトレンチを設定しておこなった。

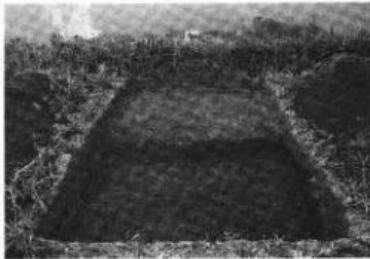
1トレンチで、遺物の出土とやや土色の変化を認め、性格を確認するため拡張して調査を継続したが、その結果1棟の竪穴住居跡の存在を確認した。また、住居跡を検出した畑地の上下段の畑地にもトレンチを設定したが、上下段は急な傾斜を示しており、遺構の存在は狭い範囲に限られるとみられた。また、西手に若干の広がりを持つ平坦地は、著しく削平されており包含層の残存を認めるることはできなかった。

今回の確認調査の成果は、従来集落跡の確認されていた低位の緩傾斜地に留まらず、より広い範囲、ことに丘陵の頂部に近いわずかな緩傾斜地にも住居が立地していたことを示すものとして、今後の遺跡範囲の認定に新たな資料を提示するものであろう。

図版3 速日峰地区遺跡



住居跡検出トレンチ



西側調査区トレンチ



第6図 速日峰地区遺跡トレンチ設定区図  
(網点、トレンチ設定箇所)

## 第5節 中野原地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

中野原地区遺跡は、東郷町の標高 288 m を前後する丘陵端部に位置する。団体営ほ場整備が予定され、現地を踏査の結果、過去に農道として整地した場所で土器細片と石斧片を表探することができた。対象地は、地形的に遺跡立地の範囲は限られたものとみられたが、範囲確認、表探遺物の包含層の確認のため試掘調査を実施した。

### 2. 調査の概要

対象地は、細かな谷地形が入りこんだ東へと突出した丘陵の先端に位置し、遺跡立地としては広い範囲は想定されない場所である。

トレーニングを設定したのは、事業範囲内の中では最も高位に位置する丘陵端部の舌状の荒地と、畑かく水田として開拓されている谷に向かう各段の 8 か所である。

結果は、水田として開拓された場所は、予想以上に削平と盛土が行われており、1~4 トレーニング以下では遺物等の出土もみなかった。遺跡の中心は、高位の荒地とその下段の 1~4 トレーニングまでとみられた。

1・2 トレーニングで包含層の良好な残存が認められ、3・4 トレーニングは、既に搅乱を受けた状態で遺物が出土したので、かつてはこの段までは構造等が広がりをみせていたものと判断される。

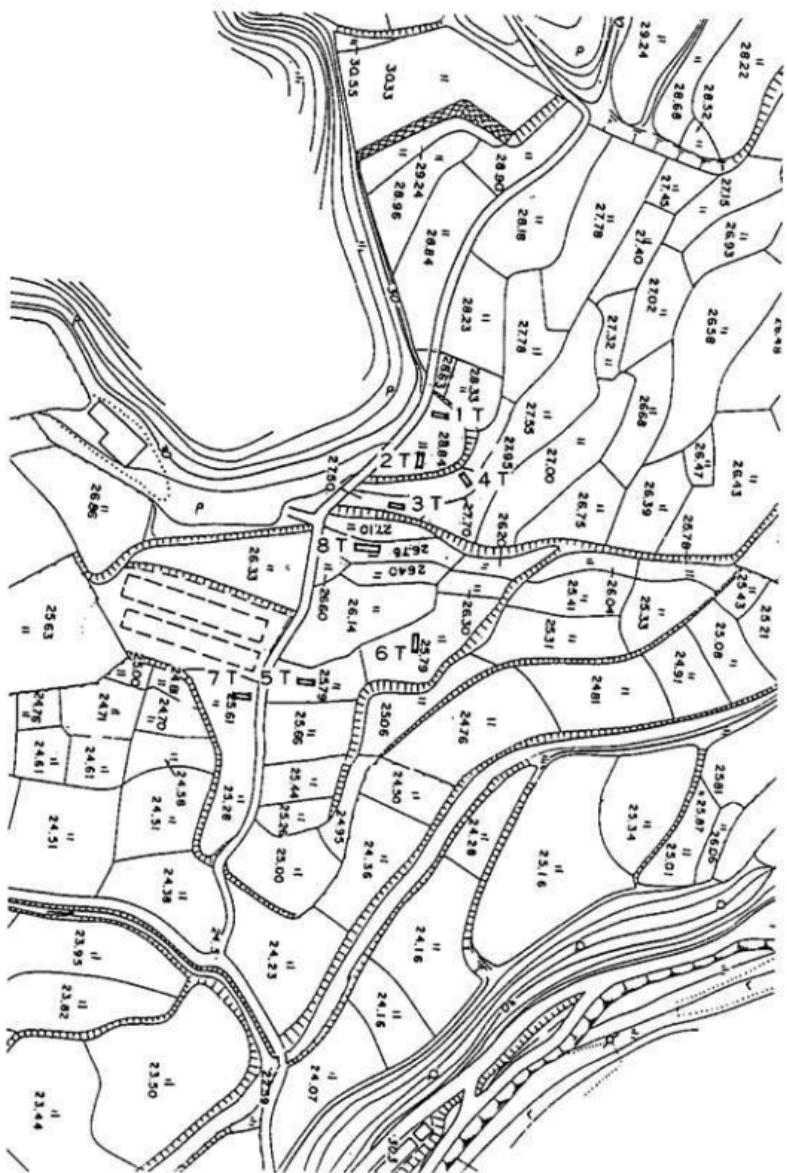
図版4 中野原地区遺跡



3・4 トレーニング設定状況



遺跡全景



第7図 中野原地区遺跡トレンチ設定図 (1/500)

## 第6節 都城盆地地区遺跡

### 1. 調査に至る経緯

九州農政局都城盆地農業水利事業所では、都城市外5町にまたがる4,310haの新規水源として、大淀川水系の木ノ川内（山田町）にダムを築造し、受益地域内にパイプラインを新設し導水する畑地かんがい事業に、昭和63年度から平成16年度間での予定で着手している。

都城盆地は県南端部位置し、霧島連山・諸県山地、鰐塚山地に囲まれた県内最大の盆地である。都城盆地の中央部には大淀川が支流の水を集めながら流路を北にとっている。河川周辺には沖積地が発達し、盆地の外縁部には台地が幾筋も見られ、また、台地の側縁には河岸段丘が発達している。遺跡詳細分布調査の終了した都城市や高崎町についてみると遺跡の大半は、この台地上や河岸段丘上に立地しており、また、その他町でも現在確認されている遺跡の多くは台地上や河岸段丘上である。

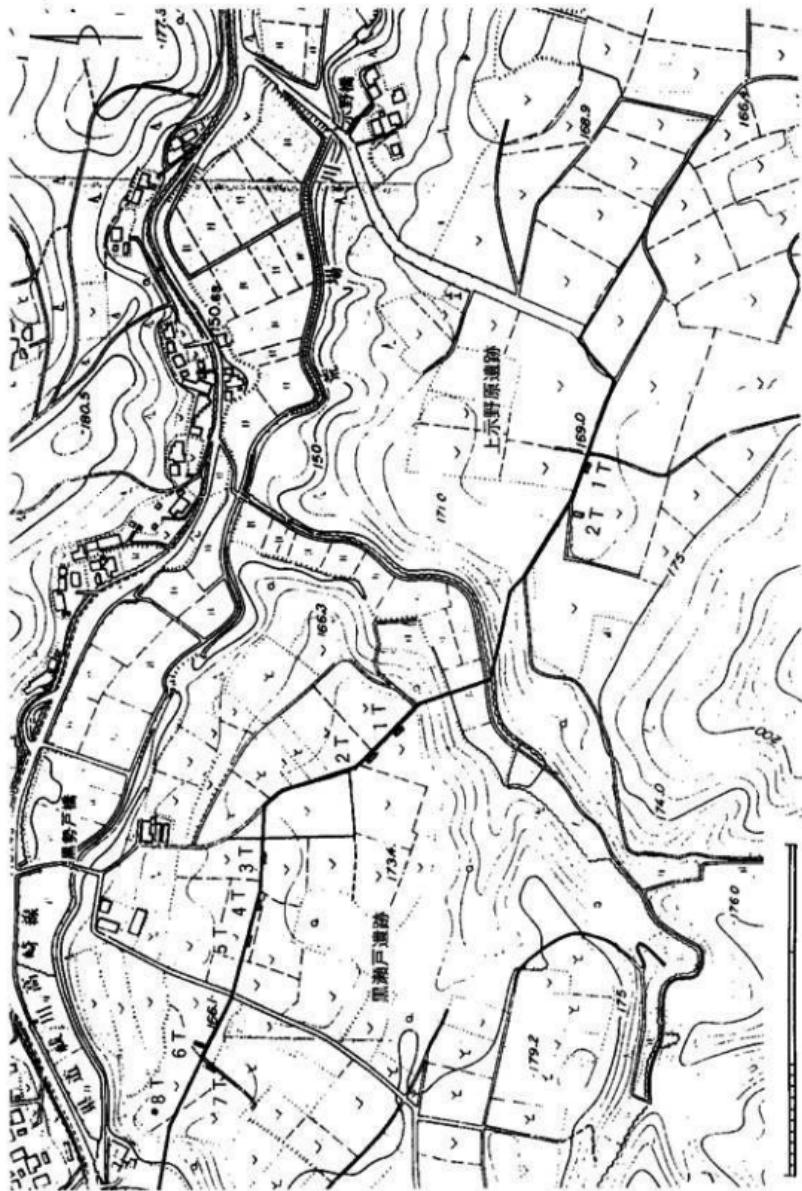
平成5年度の工事は、高崎町及び山田町内の台地上にパイプライン埋設予定である旨の連絡があった。高崎町の埋設予定地内には黒瀬戸遺跡、上示野原遺跡が含まれる外地形上遺跡の可能性のある箇所が小ヶ倉地区に2か所所在している。山田町内については、虎崩遺跡、櫻田遺跡が所在している。遺跡の所在状況確認の調査は、高崎町内については平成4年11月11日から18日までの間、山田町内については平成5年2月2・3日実施した。

### 2. 調査の概要

パイプライン埋設予定地は現農道下或いは畑内であったので、調査は、農道下について隣接する畑、畑内についてはなるべくその箇所にトレンチを設定した。高崎町内調査対象地の基本層序は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層高原スコリア（地元での通称焼けボラ）、第Ⅲ層粒子の細い黒色土、第Ⅳ層灰色を呈する火山灰、第Ⅴ層黒色土、第Ⅵ層黄褐色のボラを含む黒褐色土、第Ⅶ層黄褐色のボラを含む黒色土、第Ⅷ層御池ボラとなっている。以前には場整備の実施された上示野原遺跡以外については、この基本層序は良く残っている。

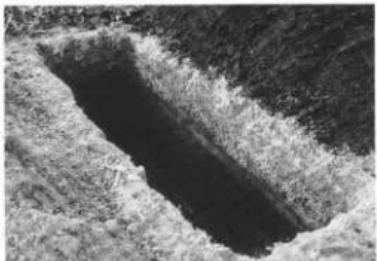
小ヶ倉地区ではトレンチを6か所設定したが、遺物等はまったく出土せず、散布もしていない。黒瀬戸遺跡では、第2トレンチ・第4トレンチで第Ⅶ層から第Ⅷ層に掘られる土坑状遺構が検出された。第1トレンチの第Ⅴ層で縄文後期と推定される土器片が出土している。上示野原遺跡では以前には場整備の実施されているため、擾乱を受けている。町教委で以前に農道化を試掘調査しているが、この部分では遺構等は検出されていない。

山田町内については試掘対象地を虎崩遺跡として調査した。基本層序は高崎町の場合と類似するが第Ⅳ層の灰色を呈する火山灰は見られない。トレンチは8か所設定し、第8トレンチの御池ボラ上のボラを含む黒褐色土で縄文後期の土器が出土している。虎崩遺跡では量は多くはないが、縄文後期や平安時代の遺物が広く散布している。櫻田遺跡では、調査中の分布調査で縄文後期の土器類が多く採集されている。



第8図 黒潮戸・上示野原遺跡トレーンチ記測図

図版5 都城盆地地区



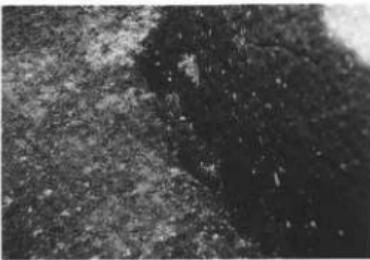
小ヶ倉地区第3トレンチ



黒瀬戸第1トレンチ



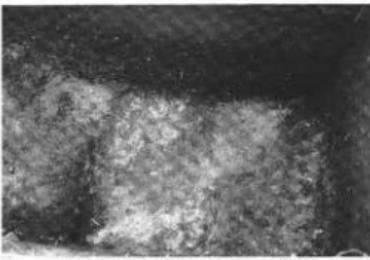
黒瀬戸第2トレンチ



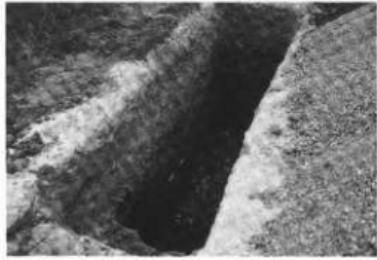
黒瀬戸第2トレンチ検出遺構



黒瀬戸第5トレンチ



黒瀬戸第5トレンチ検出遺構



黒瀬戸第7トレンチ



上示野原第2トレンチ

## 第7節 丸谷地区遺跡

### 1. 遺跡の位置

丸谷地区遺跡は、都城市丸谷町字上大五郎外に所在する。霧島山の東麓に東へ展開する台地間を丸谷川が東流し、台地の南北裾に河岸段丘、川の両岸には沖積地が発達している。周辺に所在する遺跡は、台地上或いは河岸段丘上に丸谷第1・2遺跡、下大五郎遺跡、中大五郎遺跡など弥生時代後期以降の遺跡が多く分布している。河岸段丘の中で左岸側については、土器片など遺物が多数分布しているが、大正年間の開田の際、一部を除いて御池ボラ（縄文中期間の降下軽石）を水流により除去したため御池ボラより上層については遺構は既に消滅している。

### 2. 調査に至る経緯

宮崎県北諸県郡農林振興局では昭和62年度より山田町の一部を取り込み丸谷川下流域両岸の沖積地及び河岸段丘を「丸谷地区」としてほ場整備事業を下流域から都城土木事務所が実施する丸谷川河川改修工事と併せて実施してきている。ほ場整備に伴う発掘調査は、平成2年度に下大五郎遺跡、平成3年度に中大五郎遺跡の調査が実施されている。

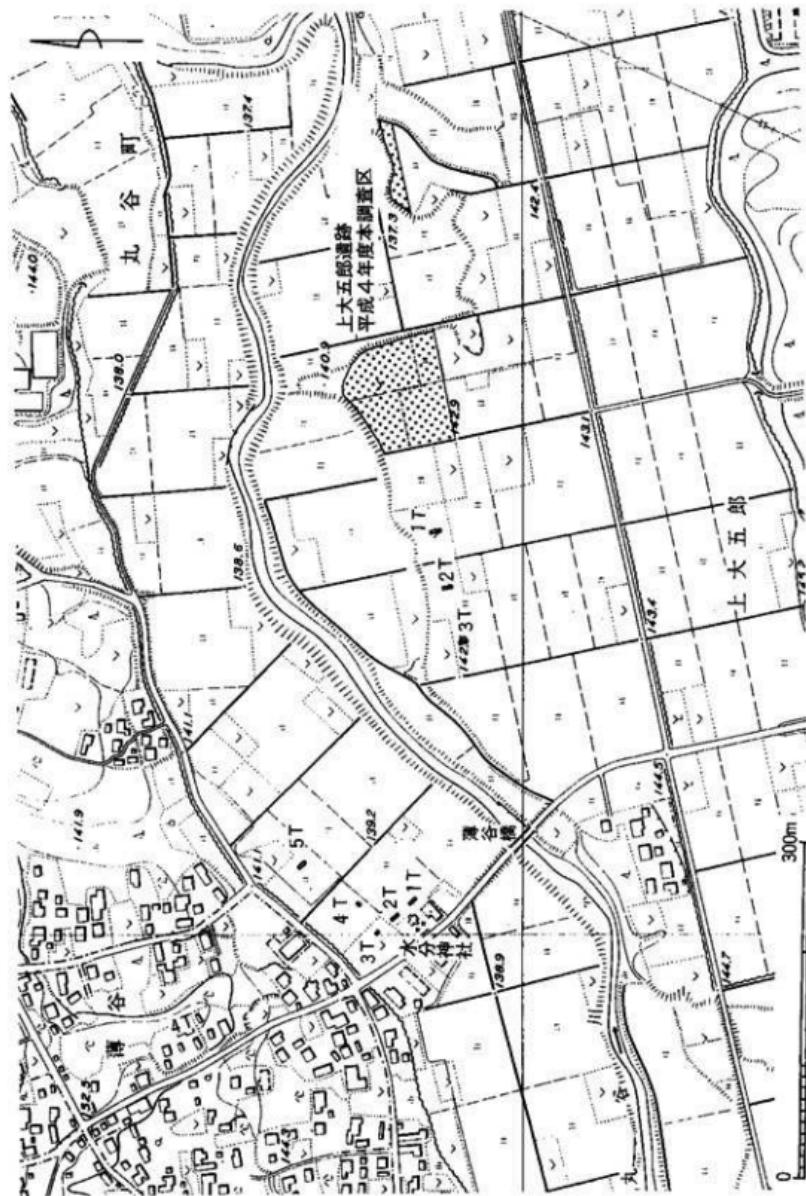
本年度のほ場整備は上大五郎であった。分布調査では河岸段丘で1か所の弥生土器散布地ほか地形上遺跡の可能性のある箇所が1か所所在したので、平成4年7月25日試掘調査を実施した。平成5年度の工事はさらに上流側が実施予定である。その箇所については平成4年12月25日、平成5年1月5日の両日試掘調査を実施した。

### 3. 調査の概要

当地の河岸段丘の基本層序は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層ボラを含む黒色土、第Ⅳ層ボラを含む黄褐色土、第Ⅴ層御池ボラとなっている。第Ⅴ層については平成5年1月の調査の際水の作用による2次堆積であることを確認した。本年度工事予定地の調査は、地形上遺跡の可能性のある箇所については幅1mのトレンチを設定して調査を行い、遺物散布地については弥生土器の包含層は御池ボラの上の層に含まれるので土層の遺存状況確認のためボーリング調査で調査を行い、第Ⅱ層以下は、良好に残っていることを確認した。もう1か所については、2本トレンチを設定し、両トレンチで布痕土器等が出土した。前者については弥生時代、後者については平安の遺跡であることが確認されたので、工事により削平等の影響を受ける部分については、都城市教育委員会により上大五郎遺跡として平成4年10月から平成5年1月まで本調査が実施されている。

平成5年度工事予定地については、幅1mのトレンチを設定して調査を行った。平成4年度本調査（平安時代の集落跡）が実施された西隣接地においては、第1トレンチではピットが検出され、第3トレンチでは土器片が数点出土した。本年度調査した遺跡が西へ広がることが考えられる。水分神社東について、土層は河岸段丘の土層と異なり、表土下は、灰褐色系粘土層でその下は砂層となっている。遺構・遺物等はまったく検出されていない。

第9図 九谷地区遺跡トレンド配置図



図版6 丸谷地区



水分神社東区



第1トレンチ



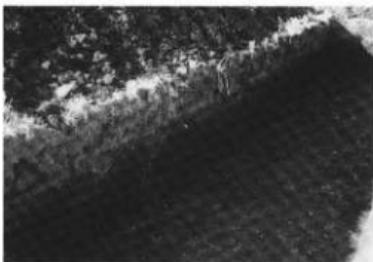
第2トレンチ



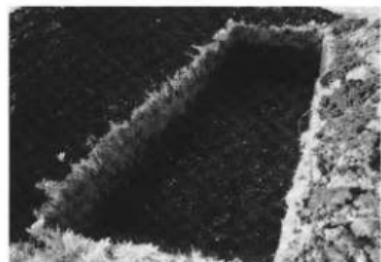
第3トレンチ



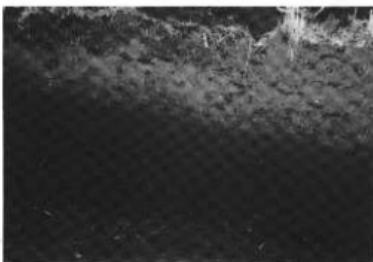
上大五郎遺跡



第1トレンチ



第2トレンチ



第3トレンチ

## 第8節 中尾・牛牧地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

中尾・牛牧地区は、北牛牧、下耳切、牛牧原など縄文時代から中世の各時期に及ぶ遺物散布地を含む標高約85mの台地で、事業区域の隣接地には古墳も立地している。昨年度に統いて次年度事業実施予定地区についての試掘調査を実施した。

### 2. 調査の概要

試掘調査の対象地は、大きく3区に分けられる。最も東に位置するⅠ地区は、隣接地で剝片等が確認され北牛牧第1遺跡の範囲に含まれる地区で、遺跡地として有望な場所とみられた。しかし、5か所のトレンチを設定した結果は、アカホヤ層の残存を見たもののアカホヤ上層・下層とも遺物等の検出は確認できなかった。対象地の西側はすぐ谷地形面しており、遺跡の中心からは外れた場所で、中心は農道を挟む東側にあるとみられる。

Ⅱ地区は、下耳切第3遺跡の分布範囲の南にあり、4か所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。第3トレンチで、擾乱層中から須恵器細片の出土をみたが、遺構及び包含層の所在は確認されなかった。

Ⅲ地区は、下耳切第3遺跡の分布範囲にあり、6か所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。土層の状態の中では、やや傾斜の強い山際に立地するため砂礫を含む層が確認され、対象地に遺跡が立地するのは条件として悪いものと判断された。しかし、西に近接する畑地では、縄文時代早期の土器片を確認することができ、対象地のより西側のさらに高い部分に遺跡の中心があるものとみられる。

図版7 中尾・牛牧地区遺跡



I地区トレンチ設定全景



III地区トレンチ設定全景



第10図 中尾・牛牧地区遺跡地区設定図(1:10,000)

## 第9節 元野地区遺跡

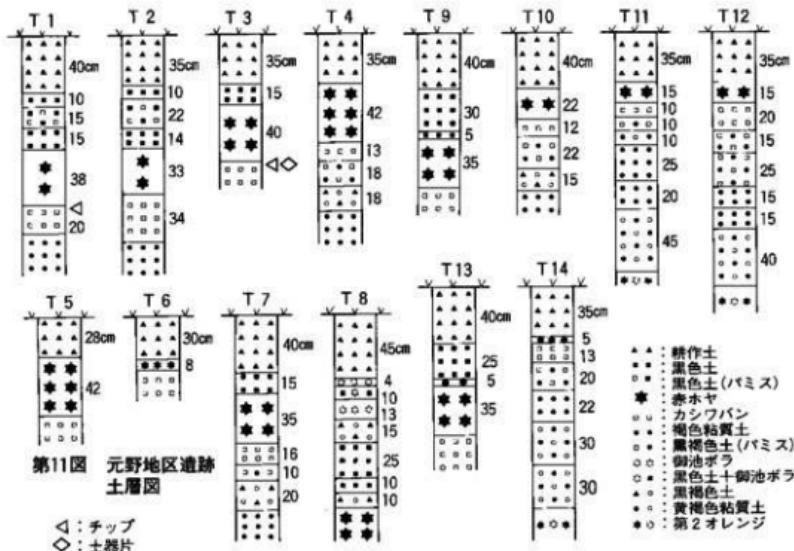
### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

元野地区遺跡は田野の市街地からおよそ2km南西に位置し、別府田野川と高速道路に挟まれた、標高180mのシラス台地に散在する遺跡群の総称である。同地区では、平成4年度から県営農地保全整備事業が行なわれており、田野町教育委員会による本野遺跡の調査が実施された。

5年度以降に工事が予定されている地区には、高野原遺跡があり、その範囲、性格等を把握し、協議の基礎資料とするため、平成5年1月25日から27日まで試掘調査を実施した。

### 2. 試掘調査の概要

工事予定地の約半分は、耕作等の都合で調査ができず、残りの半分の地区に14本のトレチを設定した。総てのトレチで8~42cmの厚さで良好な赤ホヤ層が確認できたが、T13の赤ホヤ層面で小ピットが検出された以外顕著な遺構は確認できなかった。遺物はT1の赤ホヤ層直下のカシワバン上面で黒耀石のチップ、T3トレチのカシワバン上面で黒耀石、チャートのチップと縄文土器細片が検出された。従って、T1~10を設定した南側の区域に縄文時代早期の遺跡が存在すると判断した。





第12図 元野地区遺跡トレンチ配置図(1/2000)

**平成4年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書**

**平成5年3月**

**編集 宮崎県教育庁文化課  
発行 宮崎県教育委員会**